

千年来の悠久の道を 祈りと共に歩く

熊野古道

その(一) ツツラト峠

熊野三山とは熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社をいい、ここに詣でるには紀伊路と伊勢路があった。今の和歌山、田辺方面からの中辺路や大辺路からくる道は貴族や公家が多く、伊勢から今の尾鷲付近を通って熊野に詣でるのは武士や庶民が多かった。平安時代には蟻の詣でと言われたごとく、一日70〜80人、



年に二万とも三万人もの人が峠を一つずつ

超え、あらゆる祈りと罪滅ぼしを込め、せつせと歩いたのであろう。私も二年にわたる腰痛と骨折の快方を願って、伊勢熊野古道を歩くツアーに一人参加した。世界遺産として残されたこの道は現

代人にも祈りの道として残されたのではないだろうか。

高槻発のバスは名神―新名神―東名阪―伊勢―紀勢と4時間近く走り三重県大紀町の山中の小公園に着いた。古人は伊勢からここまでたつぷり二日かかったと云う。今日は九台のバスが着くらしい。まさに現代の蟻の詣である。まずは約30分山中を助走のごとく歩くと、ここから世界遺産という標識を見ていよいよツツラト峠を目指す。道が世界遺産になってるのは、スペイン巡礼道だけである。熊に注意の上、念を入れて熊情報も書いてある。女性の語り部はこのあたりには見られない植物を教えてください。梅花黄連(ばいかおうれん)、伊豆千両、アリとうし、鹿木(かき)の木肌はまさに鹿の斑点のよう、あちこちに山桜が楚々と咲き、疲れをいやしてくれ

る。出発から一時間も登ったろうか、急に視界が開けた。伊勢の国と紀伊の国を分ける国境である。遠くに熊野灘がみえて、長旅の古人はさぞかし喜



んだことである。この日は残念な事に峠寸前で霰に見舞われ、視界が悪くなったが、PM 2.5で騒がれる日はもつと曇るらしい。ツツラトとは九折と書き、細かく山肌に沿って曲がりくねっている

ので、前の雨でぬれた石畳道を滑らぬよう注意して歩く。辺りは杉・松くらしいが名は知らないが木々から出すマイナスイオンを胸一杯吸い込む。有史以来、大雨の多い地帯で参詣者のため耐えてきた厳しい道は野面乱層積み(のづらんそうづみ)の崖と丸くなった石畳で守られてきたが、二か月前の大雨で崖が崩れ一部補修中である。これからの千年が守られることを願って、海拔357メートルから海岸沿いの町海拔0メートルの紀伊長島魚まち(うおまち)まで一気に下る。ここはマンボウの町と呼び、売店にはさすがマンボウと

鯨の串焼きが良いにおいをたて、食欲をそそる。バスは約10分走って又参加者を荷阪峠(にざかとうげ)という所に案内してくれ

る。薄く暮れはじめた寒い山中に御老人のボランティアが説明は今か今かと待っておられた。ツツラト峠の後、江戸時代に出来た少しゆるやかな峠とのこと、説明を聞くのも程々に里心のついた私達は暖かいバスに乗り込んだ。勿論さんま寿司や、めはり寿司の戻った手作りの弁当を届けて下さった人達や、二人の語り部さんの暖かい心も持ち込んで、一途高槻に帰ってきた。まず1日目のコースを無事行けますようにとの祈りは叶えられた。 S・U

桜の時期でもあり満員です。4人掛けの座席に一人座っていると体の大きな外国人のグループが乗ってきて私の隣へ男性二人、女性一人が座りました。三人がパンフレットを見たり、お金(勿論日本円です)のやり取りをしたり楽しそうです。私はさりげなく窓の外を見ていましたが、どうやら英語のようです。会話は出来ないけれど、日本の印象など聞いてみたいなど思いながら、話しかけられても困るし、などと要らぬ心配をしたり。途中、伏見稲荷や六地藏、宇治、城陽、などを通り11時18分奈良着。奈良から和歌山へ向かうのですが、これが普通電車しかありません。奈良からは桜井線です。11時38分発の電車は2両編成で、駅に停車しても、前の車の両のドアが開きません。節電のためです。

2府2県を股にかけ

電車に乗る旅に出かけ

ました。朝、9時過ぎ摂津富田から高槻まで行き、一旦改札を出て、摂津富田までの切符を買います。120円です。ホームに降り反対側の京都へ向かいます。京都から奈良線の10時4分発「みやこ路快速」で奈良へ。今回は



節電のためです。

のためでしょうか、なれないと戸惑う人もあるかもしれませんが、だれも戸惑う人はなくスムーズに運行していました。昔よく行った、天理、巻向、三輪を通ります。三輪山が綺麗な三角形で鎮座しています。樞原に入り、畝傍、香具山を過ぎ高田に着きます。ここからは和歌山線です。それからの長かったことなにする普通電車です。から、座席はよくありません。折りから満開の桜は沿道のあちこちにあつて目を楽しませてくれました。が、和歌山まで約2時間30分、少々くたびれました。和歌山からは紀州路快速で大阪まで直行です。大阪から摂津富田まで約20分、到着は5時。きつちり8時間の旅でした。高槻から120円の切符で改札を出るときは感慨無量で果たして通れるかしらと心配にもなりました。JRの運賃特例のおかげで楽しい旅が出来ました。(運賃特例の詳しいことは会員便り「琵琶湖一周の旅」をご覧ください) F・M